

ちょっと気になるデータ

非正規労働についての理由

11月8日に総務省から「労働力調査(詳細集計)」の2016年7～9月期平均の結果が公表された。労働力調査には毎月公表される基本集計と四半期ごとに公表される詳細集計の区分がある。詳細集計は調査内容や調査対象の範囲・世帯数が基本集計とは若干異なっている。

詳細集計では正規、非正規といった雇用形態別雇用者の統計とあわせて、非正規の職員・従業員についての理由の統計についても公表されており、非正規労働者の増減の背景についてみる事ができる。

2016年7～9月期平均で、男性の正規の職員・従業員は2,270万人(前年同期と同水準)、非正規の職員・従業員は654万人(対前年同期21万人増)、女性

で正規の職員・従業員は1,089万人(同30万人増)、非正規の職員・従業員は1,372万人(同33万人増)となっている。

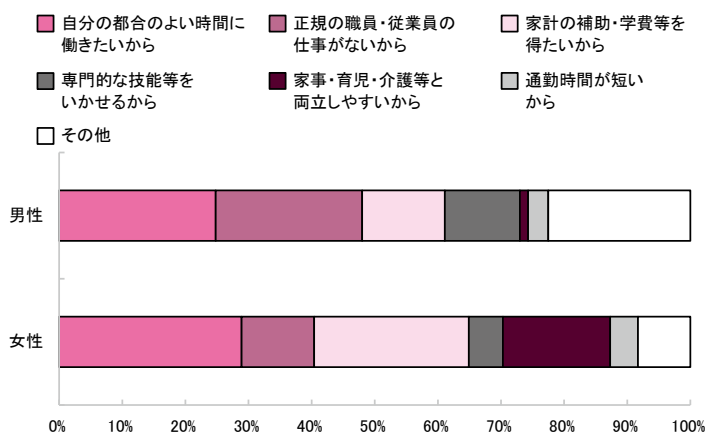
非正規の職員・従業員が現職の雇用形態についての理由をみると、男性では「自分の都合のよい時間に働きたいから」が24.8%注(148万人)と最も高く、次いで「正規の職員・従業員の仕事がないから」23.2%(138万人)などとなっている。女性では「自分の都合のよい時間に働きたいから」が28.9%(378万人)と最も高く、次いで「家計の補助・学費等を得たいから」24.5%(320万人)などとなっている。

非正規の職員・従業員が現職の雇用形態についての理由の内訳の合計に占める割合の推移をみると、男性では「正規の職員・従業員の仕事がないから」は低下傾向で推移しており、今回、統計のとれる2013年1～3月期以降初めて「自分の都合のよい時間に働きたいから」を下回った。女性では「自分の都合のよい時間に働きたいから」や「家事・育児・介護等と両立しやすいから」が上昇傾向で推移しており、「正規の職員・従業員の仕事がないから」は低下傾向で推移している。

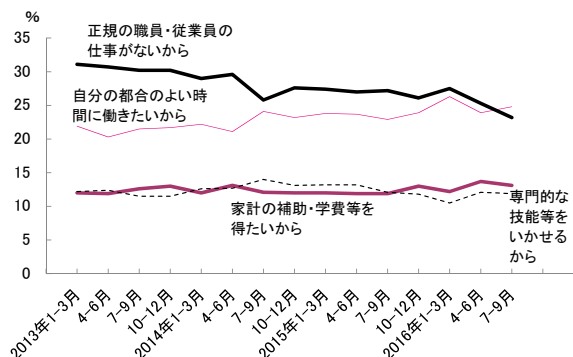
注 現職の雇用形態についての理由別内訳の合計に占める割合。以下同じ。

(調査部 統計解析担当)

非正規の職員・従業員についての理由
(2016年7～9月)

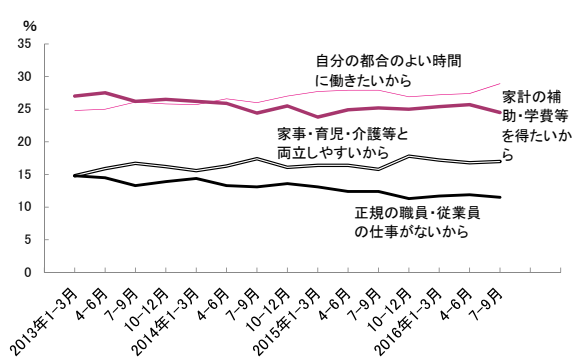


非正規の職員・従業員が
現職の雇用形態についての理由(男性)



注 主な項目を掲載。

非正規の職員・従業員が
現職の雇用形態についての理由(女性)



注 主な項目を掲載。